

誠濃海部(株) 代表取締役社長

關 昌弘さん

明日へ向かって駆ける

農業法人の経営者は語る

「JA京都と全農京都の勧めで地下水位制御システム『FOEAS(フォアス)』を導入したことで冬場の野菜生産が可能になった。販売はJAに委託して、年間を通じた農産物の生産に集中することができると話すのは、特定農業法人「誠濃海部(株)」代表取締役社長の關(せき)昌弘さん(60)。

同社のある京丹後市久美浜町海部地区の品田(ほんで)集落は町南部に位置し、1983年から87年にかけて圃場(ほじょう)整備が行われ、1区画約30㍓の水田が約30㍓にわたって広がる。しかし、高齢化で農業の担い手不足が顕著になる中、「法人化で海部地区の農地を守っていく」と關さ

地下水位制御が奏功



▶FOEAS(手前)の導入で経営の安定化を 実現した關さん

らが一念発起。2007年、より地域に根差した農地集積が行える「特定農業法人」を発足させた。設立当初は12㍓の経営面積で水稲と豆類中心の生産でスタートした。「法人化で品田集落以外の信頼を得ることができ、農地を預かってほしいとする農家が予想以上にあった」と關さんは振り返る。区画整理されているため1㍓単位の受け受けとなることが多く、現在の経営面積は38㍓、水稲の農作業受託は30㍓となった。しかし近年の米価低迷で水稲中心での経営

は厳しく、冬は積雪で圃場が湿気るため野菜生産も限界があった。そこで2013年に、品田集落が府の「京力農場プラン」のモデル地区となって府の「集落営農発展型農場づくり事業」を活用、府内初のFOEASを水田3㍓で導入した。効果は抜群で湿害と干ばつを回避することができ、田畑転換が容易になった。

現在は水稲以外に、8〜10月京夏すきん、紫すきん。11〜12月大納言小豆、黒大豆。12〜1月聖誕院だいこん。2〜3月キャベツ。

さらにハウス50㍓で九条ねぎを周年で生産し、年間を通じた収入確保が実現できている。同社は同JAの共同施設と委託販売事業を利用することで、過度な施設投資をなくして良質な農産物生産に集中する経営方針だ。

關さんは「FOEAS導入の効果は大きい。今では水稲より野菜の販売額が上回っている。これにより経営の安定化を図ることができ、雇用による後継者育成や、隣接地域も巻き込んだ地域農業の発展に取り組むことができる」と今後を見据えている。

■法人所在地 京丹後市久美浜町品田1593、(電)0772(85)9008。

■法人概要 2007年3月設立。役員4人、監査役1人。正社員3人、臨時雇用3人、農繁期パートタイマー約10人。経営面積は水田38㍓(うち酒造好適米「祝」1㍓、転作畑19㍓)、ハウス50㍓20棟(九条ねぎ)。水田の農作業受託30㍓(うち全作業9㍓、稲刈り作業21㍓)。農機具はトラクター5台、田植え機・コンバイン各2台、野菜乾燥機2台。